

異文化との出会い

～海外交換交流（ラトビア）・派遣事業（カナダ）体験記～



北海道東川高等学校 国際交流委員会

2015・10・15

はじめに

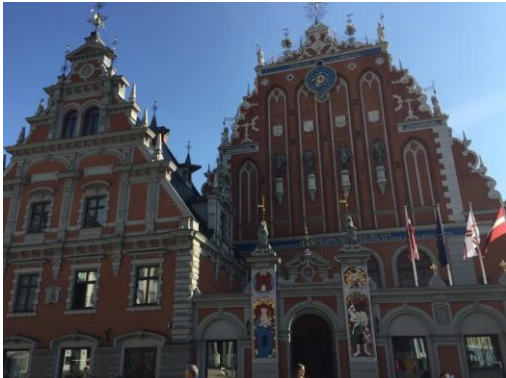
今年も東川町からの多大なご支援をいただき、海外交換交流・派遣事業が行われました。昨年（平成26年）の秋から東川高校の教育活動充実のため、東川町教育委員会との打合せを何度か実施し、その過程において海外交流事業の充実も話題となりました。その後、4年前より参加しているラトビアへの海外交流事業に加え、新たにカナダ・台湾への派遣という新たな一歩をスタートするという意見がまとまり、本事業の実現のため東川町より一層のご支援をいただけることとなりました。

新年度早々に保護者向け案内文書の作成、募集要領や選考方法の確定、実際の面接試験や書類審査等、5月末までは派遣生徒の決定等、時間をかけながら校内委員会（国際交流委員会）を軸に進めてきました。6月以降は東川町交流促進課課長 菊地 伸様、交流促進室室長 大上 容子様をはじめ、国際交流員の皆様などのご支援で事前研修を行い、日常会話や現地で行うプレゼンテーション作成等の準備を進めていただきました。

この度、ラトビア・カナダの研修に参加した4名の生徒の体験記がまとまりましたので、本冊子に収録することといたしました。今回、東川町交流促進課の皆様をはじめ、多くの方々のご支援・ご協力を賜りました。ここにあらためて深く感謝を申し上げますとともに、本冊子をご一読いただき、ご指導・ご教示いただきますようお願い申し上げます。

東川高等学校 国際交流委員会

ラトビア風景



カナダ風景



『ラトビアでの体験』

2年A組 小林 優希那

この度、東川町のご支援を受けて、8月29日から9月19日までの3週間、ラトビアに短期留学に行きました。私は、高校の英語の授業を通して外国の文化について興味を持つようになり、実際に自分で異文化を感じてみたいと思い、留学を希望しました。

ラトビアという国は東川高校に入学するまで聞いたことがなく、どこのあるのかもまったく知りませんでした。しかし、自分で調べてみると国の規模は大きくはありませんが、とても美しい国であることを知り、行くことがとても楽しみになりました。

事前準備では現地に行った時に活用できる英語を教わりました。学校で習う英語の学習とは違い、実際の会話や生活に必要な英会話の講習であったため、深く理解することができとても楽しく感じました。また、ラトビアの高校生に日本を紹介するためのプレゼンテーションの準備をしました。私は高校のことを紹介しようと思いましたが、英語で説明するのがとても難しく、苦戦しました。しかし、自分で英文を考えたことでしっかり身につきました。

出発当日は、英語で生活していけるのか不安でいっぱいでしたが、現地に着くと日本とは違い、見る物すべてが新鮮でその景色に圧倒されました。見慣れない景色を眺めていく中で、いつしか不安も消えていきました。ラトビアでは最初の数日間は、ユースセンターで過ごし、その後は各々のホームステイ先で生活しました。ラトビアの学校では、英語・芸術・体育・音楽・ロシア語等、いろいろな授業を受けました。授業では日本の文化を話す機会が多くあり、みんながとても関心を示してくれて嬉しく思いました。

日本との違いで最も驚いたことは、学校生活の違いです。私の行ったルーイエナ学校には小学生から高校生まで、同じ校舎で生活をしています。授業もひとコマ、40分ととても短いため、あっという間に終わります。また、大学のように自分で授業を選択します。最初は、何もかも日本と違っていたので戸惑うことが多くありましたが、時間が経つにつれルーイエナ学校の生活に慣れていきました。小学生と高校生と一緒に生活するため、高校生は下級生全員のお世話をしなければなりません。そのため、自分が大人として自覚を持ち、自律した生活を過ごさなければなりません。実際、ルーイエナの高校生はみんな大人びていて、しっかりしていました。自分の子どもっぽさに少し恥ずかしさも感じ、もっとしっかりとした生活を送らなければいけないと感じました。

このように何もかも違う場所での生活では大変なこともたくさんありました。あたり前ではありますが、英語しか通じません。自分の考えていることを英語で伝えるのが一番苦労しました。しかし、とにかく一生懸命に伝えようとする少しづつではありますが、言いたいことが伝わりました。心を込めて伝えるということが本当に大切であることを実感しました。この他にも数えきれないほど、さまざまな物に触れ、感じ、得ることができました。その中でも自分にとって一番大きかったものは『自信』を持つことです。



今までの高校生活では、何かを本気で頑張り、やり遂げたと思えることがなく、平凡な毎日を過ごしていました。しかし、ラトビアでの生活は英語が聞き取れるようになり、自分から話しかけ会話が弾んだ等、小さいことかもしれないが自分の自信につながる経験をたくさんしました。これらの小さな自信が、日本に戻ってきてから大きな自信となりました。この経験は、これからの学校生活だけではなく、卒業した後も役立つ大きなものになりました。

この3週間で本当に貴重な体験をして、たくさんのことを得ることができたのも、東川町役場の皆様、高校の先生方、家族の協力があったからだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験が無駄にしないよう、学んだことを活かしてこれからの学校生活や進路に向けて一生懸命に取り組んでいこうと思います。

『ラトビアに行って』

2年B組 佐藤 彩華

私は8月末から3週間、ラトビアに交換留学生として研修に参加しました。留学は私にとって幼い頃からの夢であり、海外に行くことも初めてであったので文化の違いにとっても興味をもちました。私は、東川高校に入ってこの海外交流事業を知るまでラトビアという国を知りませんでした。地理も分からず、ラトビア語もあることを知りませんでした。しかし、英語の授業でラトビアについて紹介されたり、現地に行った人の話を聞くうちにとっても興味がわき、今回の事業に応募しました。

事前研修では、現地で使えるフレーズや困った時に使える英語を学び、ラトビア語での自己紹介や挨拶を方法を学びました。この研修で学んだことは、現地でとても役立ちました。ラトビアでは、姉妹都市のルーイエナの学校に通いました。そこではラトビア語・英語・ロシア語・音楽・体育・技術・家庭等の授業を受けました。ラトビア語での授業だったので、はっきり内容を理解することは難しかったのですが、周りにいた生徒たちが英語で丁寧に教えてくれて助かり、また仲良くなることもできました。午後からは、ホストファミリーとルーイエナ周辺の地区を見学したり、バルト海に行ったり、ラトビアの文化にたくさん触れることができました。



私が日本との違いで印象に残っているのは、親子の中がとても良いことでした。私のホストファミリーは食事が終わると、母親の部屋に集まりテレビを見ながらその日の出来事についての会話をして過ごし、私はその時間がとても良いと感じました。その他にどこかに出かける時にはハグをする等、とても仲のよい家族であると感じました。もう一つは、レストランやカフェで水が無料ではないこと。飲む場合は、スーパーや売店で購入しなければならないので、手軽に水を飲むことができませんでした。

今回、この事業に参加して私は、「もっと他の国の文化を知りたい」、「いろいろな国に行ってみたい」という気持ちが以前よりも強くなりました。そして、絶対にまたラトビア(ルーイエナ)に行こうと心に決めました。もっといろいろな人にラトビアの良さや「海外に行くことで勉強になることがたくさんある」ということを周囲の仲間にも知ってもらいたいと思いました。

本事業の企画・主催をしていただいた役場の皆様、高校の先生、現地でお世話になってホストファミリー等には感謝の気持ちでいっぱいです。また、家族や応援をしてくれた友達にも感謝したいと思います。ありがとうございました。

『カナダ留学への取組と感謝』

2年A組 早坂 美玖

カナダへの留学が決まった日、毎週金曜日に事前学習が東川町役場で行われた。私は、今も続いている会話を試すことと日本で学べない会話を身につけることが、行く時に決めた抱負でした。家庭事情により、遅れてしまう時もあった。しかし、事前学習は現地に行った時に役立つ授業であることを理解していたので、何とか都合をつけながら出席をしていた。

そして、8月28日、いよいよカナダへ出発する日が来ました。飛行機の乗り継ぎもあり、無事、カルガリーに到着し、いざキャンモア町へ…。時刻は東京時刻から15時間戻り、時間を遡る感覚を覚えました。28日から9月1日までの期間は、学校はまだ始まっておらず、ホストファミリーとその時一緒に行動を共にしたドイツ、イタリアの留学生とスポーツ観戦をしました。最初は、なかなか話すことができず、落ち込むこともあったけれども、一緒に学校に通うとホストマザーが教えてくれました。その後、私の元気が回復してきた頃を見計らい、ホストファミリーは、ダウンタウンへの買い物に誘ったり、一緒に食事をする等、私が少しでも楽しく過ごしやすいようにと環境を整えてくれました。



学校が始まるまでの期間で最初に学んだことは、家庭での生活習慣の違いです。日本の食事は少な目の量ですが、カナダはたくさんの量を用意する習慣があり、一人ひとりに取り分けて用意するのではなく、ひとまとまりで提供し、自分が必要な分を摂るという食事スタイルです。

学校は Openingceremony から始まり、授業を選択できるという変わったカリキュラムでした。今回は、1時間目にCook（「料理」）、2時間目にArt（「芸術」）。昼食を取った後、3時間目にPE（「体育」）、4時間目にESLをとりました。それぞれ授業は1時間半で大学のような感覚をもちました。ESLはInternational studentのEnglishで日本でいう英語です。プリントを使って勉強をしました。教室には黒板などではなく、パソコンを使って授業をしました。今回の経験は、これからの高校生活での英語授業の学習にも十分に活かし、コミュニケーション能力を更に高めたいと考えています。卒業するまでにALTのカトリナ先生や周囲の仲間たちとのスムーズな会話ができるようにしたいと思います。また、日本語を学ぶため町内を訪れる外国人留学との会話ができるようになりたいと思います。

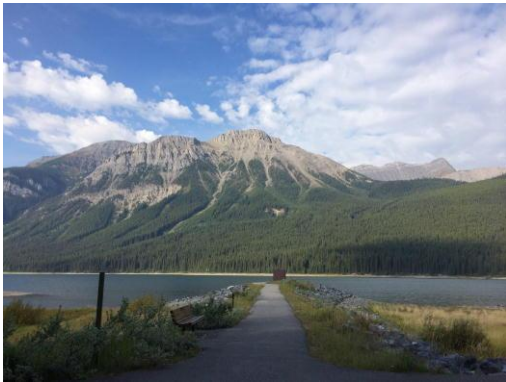
今回、大変お世話になった東川町役場交流促進課の皆様、東川高校の先生方、町長様をはじめ町民の皆様、カナダでのホームステイさせていただいたGlenさん、Canadian Rockies Public Schoolの先生、校長先生、キャンモア町町長様等、多くの方々のご支援でこの度の留学を無事終えることができました。本当に感謝感激です。ありがとうございました。

『カナダ派遣研修を終えて』

2年A組 湯佐 夏海

私は、今回の派遣研修で異文化交流をするということ、英語を学ぶ、異国の方々と積極的にコミュニケーションを取るという抱負をもって臨みました。英語が十分に話せる自信もなかったので、異国の方々との交流やコミュニケーションを取るのが大変でしたが、実際に行くことで、多くのことを感じました。私から日本の文化・習慣をうまく伝えることができなくとも、日常の生活を共に過ごすことで習慣の違いにお互いが気付き、自然と理解してもらえて良かったと思います。

私が現地の高校で学んだことは、誰かにまず頼るのではなく自分を信じることに、恥ずかしがらずに積極的に発信をすること、各々の個性を大切にしていることです。カナダの高校は、クラスがなく留学生はたくさんいるので自分から話しかけないと人間関係が築けません。そのため、上手に話せなくとも明るく自分から話しかけることで、友達をつくるようにしました。さらに、カナダではメイクをしている、髪を染めている人等、日本の高校生では想像のつかない規則で驚きました。制服はなく、各自が自分の好みで生活するのが良いという考え方でした。授業中でも板書をノートに写すよりも、テーマについて意見を交わす場面が多く、何より自分の意志を持つことを大切にしています。日本にしていると自分が表に出たり、人前で話すことが恥ずかしいと思うことが多くありますが、カナダでの生活を通して、自分自身の意見や表現をしっかり磨こうと思うようになりました。



カナダの文化・習慣で感銘を受けたことは、家族との時間を最も大切にしていることです。日本だと高校生くらいになると家族との時間が少なくなりがちです。しかし、カナダでは休みになると、家族とのキャンプやアクティビティーをして過ごし、見ていて心が温かくなりました。また、他人を偏見の眼差しをもって接することなく、英語が話せなくとも理解をしようと努めてくれる人がたくさんいて嬉しく思いました。

日本とカナダでは、周囲の環境や建造物を見て感じることも、考え方や習慣の違いを理解できたことが大きな収穫でした。

今回のカナダ派遣研修での経験で、これから活かしたいことは、自分の意志をしっかり持って積極的に行動するということです。今までは、意見があっても控えておくケースが大半でした。少しずつ自分を変え、積極的に意見を発信し、コミュニケーションを大切にしていこうと思います。今回の経験で、海外の方と話す楽しさが分かったので、東川で出会う海外の方とも異文化交流やコミュニケーションを取りたいと思います。最初は新しい環境に慣れず大変でしたが、すべてが私にとって良い経験となりました。

最後に、お世話になった役場の皆様、先生方、そして家族に感謝を述べたいと思います。3週間、貴重な経験ができました。この経験を今後にしっかり活かしていきます。皆様本当にありがとうございました。